

図書館長着任のご挨拶	1
図書館と見識	3
東南アジア・中国の大学図書館視察	5
ミニ・シリーズ・情報検索コーナーより	
その⑨「開蔵Ⅱビジュアル」利用ガイド	9
平成 18 年度日本紹介コーナー図書	11
本学教員著作寄贈図書	13
平成 18 年度利用状況	14
ミニ・トピックス	17

※ PDFファイルをご覧いただくためには、アドビ社のacrobatリーダーが必要です(無料)。ダウンロード方法など詳細については[こちら](#)をご覧ください。

図書館長着任のご挨拶

高 阪 一 治

能勢隆之学長よりこの4月1日、広報及び附属図書館担当の副学長職を拝命した。微力ながら全力を尽くす所存ですので、ご協力ご支援をお願いしたい。

さて、国立大学法人4年目を迎えた鳥取大学では「知と実践の融合」を理念に掲げ、学長以下教職員が一丸となって各種改革に取り組んでいる。教育や研究の充実はもとより、産官学連携等、地域社会への貢献も大学運営の重要な柱として位置づけ、従来以上に地域に開かれた大学を目指している。本学附属図書館もその例外ではない。法人が目指す中期目標・計画に従って、本学附属図書館もその役割を着実に果たしているところである。

大学附属図書館が果たすべき基本的役割は、大学の使命である①高等教育機関に相応しい教育及び研究の実をあげること、②優れた人材を養成して社会に送り出すこと、③地域社会の活性化に寄与すること、一の3点

を推進するために、図書館機能を発揮して支援することである。したがって、附属図書館の役割は学内ニーズに応じて教育と研究の支援を行うこと、さらに、この役割と密接に関連して学外のニーズに応じて地域社会への貢献を行うこと、である。

では、現状はどうか？上記の役割はどの程度果たされているのか？この点を明らかにする前に、再確認しておく事柄がある。

本稿でも一応、図書を所蔵する館(ビブリオテカ)としての図書館という伝統的な名称を用いているが、その実、館内では書籍に代表される紙媒体のみならず、電子化された学術情報がネットワークを通じて受・発信され、活用されているのが現状である。わが附属図書館においても然りである。



こうした学術研究全般を支えるコンピュータ、ネットワーク、学術図書資料等を総称して学術情報基盤と呼ぶとすれば、それはいまや大学の内外における学術研究を支える基盤（インフラストラクチャー）であって、この基盤なくして、その整備なくして、今日の高等教育や研究は成り立たない。その効果は意識するとせざるとにかかわらず大学の教育研究活動全般に及び、分野を問わない。教職員、学生はこの基盤の上に、この学術情報環境の中で生活を送らざるをえない。したがって今日、大学として生き延びその存在意義を鮮明にするには、これを活用できる財政支援が必要だということになる。

だがしかし、こういう電子化された学術情報が普及し幅をきかす環境の中では、伝統的な紙媒体による図書館資料は、その中味の古典的・歴史的な価値や造本の美術的な価値をもつ貴重な資料以外は不必要で古くさいものばかりかとなると、決してそうは言えない。むしろ今日大学図書館に強く求められているのは、「電子情報と紙媒体を有機的に結びつけた新たな意味での「ハイブリッド・ライブラリー」の実現」である（科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」平成18年3月23日）。とりわけ人文・社会科学分野においては伝統的な紙媒体資料は「なお重要度を失わない」（同上報告）と言えるし、本学図書館でも今後いよいよ本学の教育研究の特徴に合わせた「ハイブリッド・ライブラリー」を目指す必要がある。

さて、先の問題に戻ろう。役割達成の程度という問題である。学術図書資料が以上述べたような紙媒体と電子媒体との混合という現状をふまえて、本学附属図書館は学内ニーズに、また地域への貢献という学外からのニーズにどのように対応しているのか？

学習や教育面に対しては紙媒体を含む図書資料（シラバス記載資料を含む）の充実整

備に努め、また、県立図書館をはじめとする県内全市の公共図書館との地域連携でもって、学内的に見て利用可能冊数の大幅な増加をもたらす一方で、地域の連携先への積極的な資料提供等に努めている。また、全国の大学生によく読まれているベストセラーのコーナーを設け、県内地域連携による図書利用とも相まって入館者増の一因となっている。研究面では、電子ジャーナル及び学術文献データベースの整備をあげることができる。こうしたことは図書館予算の共通経費化により可能となった事柄であり、継続が必要である。

大学法人の財政が逼迫し、いわゆる外部資金の獲得が求められる中ではあるが、4年ないし6年を学生として送る、また教員や事務職員として勤務することを考えた場合、本学が＜魅力ある場＞として彼らにアピールするか否かは大きな問題であり、図書館サービスとその館がもつ学術的・文化的雰囲気も、一定のアピールポイントとなろう。

オープンキャンパスで大学の雰囲気を知ること、どんな授業があるのかを体験することが志望校の決定の際に大きな影響を及ぼす、ともいわれている。本を買うよりも他の支出が優先され、結果的に図書館を最大限に利用することを選択せざるをえない今日の学生諸君にとっては、図書館問題は実にアクチュアルな問題であり、長時間狭隘な空間と不足がちなサービスの中で勉学することは避けたいであろう。

図書館問題は、既述の大学の使命遂行の下支えという面のみならず、受験生の確保という大学経営の面からみても喫緊の課題なのであり、整備が急がれる。総合的な政策判断が必要ではあるが、知を結集し創意工夫を発揮して、いよいよ本学に相応しい、誇りとなる附属図書館を生みだせるように頑張りたい。

（こうさか かずはる：副学長（広報担当、附属図書館担当）、附属図書館長、地域学部教授）

図書館と見識

片山善博

大学図書館の持つ意義をあらためて考えてみたい。それは、学生の知的生活面での自立をサポートするとともに、教官の研究や教育機能を下支えすることである。同時に、忘れてならないのは、大学の役職員にとっても図書館が重要な役割を果たすはずだということである。国立大学法人に移行して以来、大学経営はこれまで経験しなかった未知の世界に入り込んでいる。そこでは過去において往々にして見られた前例主義や「本省」の指示待ちはもはや通用しない。当事者が自ら考え、自ら行動することが不可欠である。そのためには判断材料や資料、データを自前で調達することが必要で、それを提供してくれるのが図書館のレファレンス機能である。

さらに、最近の大学は地域との連携が強く求められるようになった。この地域との連携の中で、大学図書館もまた新しい役割が期待されている。地域の各種図書館とのネットワークを形成することである。このネットワークを通じて、大学がこれまで集積してきた数多くの文献や書籍、資料が、広く市民の利用に供されることになり、それは「知の地域づくり」にも裨益する。

国立大学の経営は現在非常に厳しい環境にさらされている。年々減少している大学運営交付金の配分方法について、さらに競争的資金の比率を高めようとの主張も出てきている。こうした状況の中では、各大学における学内の予算配分などでもとすれば地道な分野にシフトせざるを得ず、図書館もその対象として例外ではない。

たしかに図書館は地道ではあるかもしれな

いが、重要な知の拠点であることは、既に述べたとおりである。そもそもわが国の知の拠点たる大学が、一時の財政事情によって経営のスリム

化を強いられた際、真っ先にその知の拠点の中核を削ぐことから始めるとすれば、それは甚だしい見当違いであり、その見識と先見性を後世疑われることになるだろう。鳥取大学においては、是非知の拠点である図書館を慈しみ、大切にしてもらいたいと願っている。

そこで、この稿では、これからの大学図書館の運営のあり方を考えるための参考として、最近のわが国自治体における図書館の実情の一端を取り上げてみたい。ただし、それは図書館のモデルとしてではなく、大学図書館にとってはいわば反面教師として紹介することにならざるを得ないのが実に残念なことである。

さきに「知の地域づくり」にふれた。これを国の段階で構想すれば、知的立国ということになるだろう。それは、わが国が国是として知に基づいた国づくりをめざすということである。間違っても軍事大国や金満国家、土建国家などと称されるようであってはならない。知的立国とは、科学技術や文化芸術を大切に、それらによって世界に貢献し、国民を豊かにする国柄をいう。この知的立国を念頭において、各地域が実践するのが「知の地域づくり」にほかならない。

知の地域づくりを進める上で重要な役割を担うのが図書館である。図書館はいわば地域の必需品である。道路や橋が地域のインフラ



であるのと同じように、図書館は地域に欠くことのできない知的インフラであるからだ。ところが、驚くべきことに図書館を持たない市町村がわが国にはいまだ多数存在している。これでは知の地域づくりも覚束ない。自治体はもっと図書館に目を向けなければならないし、その前提として図書館の意義を深く認識する必要があるだろう。

図書館が設置されている自治体でも点検と評価が必要である。肝心の予算とスタッフが十分かどうかである。まず予算であるが、最近図書館の予算を削られて困っているという話をよく耳にする。財政難のしからしむところであろう。しかし、不況などでともすれば人の気持ちが沈みがちになる時こそ、図書館環境を整え、充実させるべきである。そうしたことが人々を元気づけ、明日に向かって挑戦する勇気を生み出す素地をつくることにつながるからである。

しかも、現行地方交付税制度の中では、財政事情厳しき中にあっても各自治体が図書館運営に要する経費をきちんと確保できるように措置されている。もとより地方交付税交付金は一般の国庫補助金ではないので、措置された額を即図書館に充てていないからといって違法だというものではない。要はそれぞれの自治体において図書館に対する理解と見識さえあれば、一応十分な予算措置をするだけの財源の裏打ちがなされているというだけのことだ。ということは、もしも図書館に対する理解が浅い自治体においては、本来図書館に充てることを想定された財源がどこか別のところに回されることもありうるということである。自治体の中には、交付税制度において措置された額を大きく上回る予算を図書館に振り向けているところもあるのだから、見識と不見識の差がはっきりと現れる分野だということでもある。

予算だけでなくスタッフも重要である。館長や司書がちゃんと揃っているかどうかということだ。実際に、図書館という施設は存在するもの

の、十分なスタッフがいらない図書館も少なくない。例えば、館長が非常勤待遇の図書館が見受けられるが、こうした任用で済ましている自治体は是非考えを改めるべきだろう。館長が非常勤だと絶対いけないとまでいうつもりはないが、非常勤だと十分な発言力を持っていないのではと案じている。図書館環境を整えるために必要な予算やスタッフを確保しようとすれば、いきおい館長には発言力と行動力が必要となる。そうでなくとも現状において図書館に対する理解が乏しいわが国自治体の政治状況の中で、館長にはしっかりと実情を訴える立場と力量が備わっていなければならないが、非常勤職の館長にそれが期待できるかどうかということである。図書館長は、首長や議会という自治体運営の責任者に対して堂々ものが言える存在でなければならない。

次に司書である。市町村の中には、重要なスタッフである司書の配置を不十分なまま放置しているケースがしばしば見られる。ひどいところになると、司書資格を有するスタッフを殆ど置いていない図書館すらある。そういう自治体では、図書館の機能を倉庫のようなものと勘違いしているのかもしれない。図書館は本を貯蔵し、借りに来た人に本を渡し、返しに来た人から受け取るのが司書の仕事だという程度の認識なのだろうか。もとより図書館は断じて倉庫ではなく、知の拠点である。その知の拠点において、レファレンスを中心とする知的作業を担当するのが専門職としての司書なのである。司書の職を倉庫の管理人と勘違いしている自治体の首長には、ここでも認識を改めてもらわなければならない。

そこでその自治体の首長や議会のありようである。知の地域づくりの拠点である図書館を整備する上で決定的に重要な要素は、自治体の首長それに議会を構成する議員の見識である。現状においてこれら自治体運営の責任者が図書館の大切さをよく理解しているかどうかという点になると、正直なところ心もとない限

りである。

というのも、例えばこれまで全国津々浦々市町村合併が進められてきたが、合併計画の中に、これまでなかった図書館をこの際整備しようなどという殊勝な構想を盛り込んだ自治体が果たしてあっただろうか。また、合併後は自治体の区域が広大になるので図書館の分館を設置する、あるいは合併で余裕が生じる職員定数を司書などの図書館スタッフの充実に回した自治体がいかにあっただろうか。

合併を躍起になって進めた政府は、該当の自治体に対し過剰なほどの財政優遇措置を提供した。これらを相変わらず道路や箱物に入れ込んだ自治体ばかりが目立つ一方で、この際図書館の整備充実に充てようとした自治

体は数えるほどしか見られない。なんとも寂しいわが国地方自治の光景ではある。

最後に、もう一度話を大学図書館に戻しておく。今述べたわが国自治体の図書館行政の貧しさは、今後の大学図書館のあり方を考える上で他山の石となるはずだ。しかも大学は自治体と異なり知の拠点である。ここは何としてでも、大学が知の拠点としての見識を示さなければなるまい。関係者の一層の努力を期待してこの稿をとじることとしたい。

(かたやま よしひろ： 本学客員教授、慶應義塾大学大学院法学研究科教授、前鳥取県知事)

★★

東南アジア・中国の大学図書館視察

松 本 秀 毅 ・ 森 田 正

★★

平成19年3月初旬、本学の理念である「地域にひらかれた知と実践の融合を目指す」将来構想の中で、図書館がその特色性を生かした提案(アピール)を行うためのモデルを探るため、東南アジア及び中国の大学図書館の図書館施設見学及び図書館サービスを中心に視察した。シンガポール・上海(和泉前館長と松本)とベトナム・タイ(小花前学術情報部長と森田)の2つの班に分かれ、各国のトップレベルの大学図書館をそれぞれ訪問した。

① シンガポール国立大学図書館

琵琶湖とほぼ同じ面積を持ち人口400万のシンガポールにある当大学は、広大な緑豊かな敷地に(学内巡回バスで20分)あり、10以上の学部が多民族の留学生を含め、国際色豊かな3万人以上の学生が集う総合大学である。

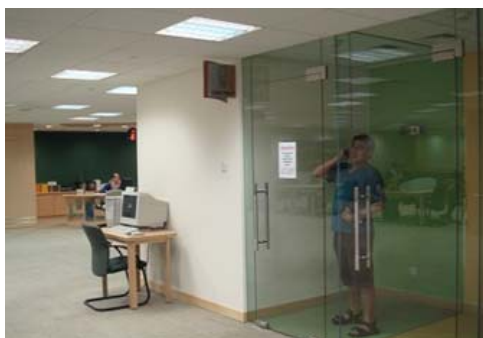
図書館は、中央図書館、中国図書館、など7つの図書館に200人のスタッフが「Your ONE stop」を掲げてサービスを展開し、整備されたIT環境で学生が自由に情報にアクセスし、広々とした静かな閲覧室で学習する他、Perk Point(リフレッシュ空間)でくつろぐ姿が印象に残った。



ロビーのような開放的空間 柱中に新着図書コーナー



Perk Point 飲食コーナー：自販機設置



Chat Point 携帯電話コーナー



館内スタッフと意見交換（左が和泉前館長）

② 上海交通大学図書館

人口1800万人、2010年開催の万国博覧会が予定されている国際都市上海は、エネルギーに満ち溢れている。当大学は、国家重点大学であり理工系の伝統が強く、江沢民の出身校として傑出した人材を多数社会に輩出している。

図書館は大学の3万人以上の教員、学生に対し、高品質でダイレクトなサービスをオンラインで提供しており、国家レベルでの人材育成は、構内の建物新築ラッシュからもその勢いを感じとることができた。

2つの図書館を通じて、国家戦略として「人材が資源」であり、図書館は人材育成、文化を支える機関であるとする図書館振興政策のビジョンの必要性を痛感した。「図書館と情報の融合」を使命として、コーディネートする図書館職員のスキルの高さや、大学の持つ独自性を生かした取り組みについてもおおいに示唆を受けた。両大学とも、日本の大学との提携を多岐に行っており、今後の本学附属図書館との交流について友好的な意見交換を行った。



← 上海交通大学図書館

情報検索端末コーナー →





電子閲覧室



図書館新築中(2010年完成)

③ ハノイ工科大学図書館

自転車、バイクが道いっぱいに走る活気あふれた首都ハノイにあり、1956年にベトナムで最初の科学技術大学として開学し、ベトナムの工業界を担うエンジニア育成と工学研究を推進する基幹大学である。現在 14 の学部があり、26,000 人以上の学生が学んでいる。

図書館は、昨年の 11 月に完成したばかりで、10階建てで情報センターとの複合施設となっている。1 階から 4 階までが図書館エリアで、

蔵書冊数約 40 万冊を所蔵し、重要な図書にはICチップが装備されていた。また、2階、3階のPCルームは、240 台が利用できる環境で、各閲覧室とも満席で学生の熱気に溢れていた。

現在、立命館大学等との共同で高等教育支援事業(IT)プロジェクトが進行中であり、今後さらなる発展が見込まれている。



ハノイ工科大学図書館



館内スタッフと意見交換



PC ルーム



高等教育支援事業(IT)プロジェクト室

④ チュラロンコン大学図書館

タイ王国の首都バンコクは、東南アジア随一の近代的大都市であり、高架式鉄道の BT(スカイトレイン)や地下鉄も整備されている。バンコクにあるチュラロンコン大学は1917年に設立され、最も歴史のある名門大学である。18学部、28,000人以上の学生が学んでいる。



館内スタッフと意見交換

図書館は学部等の図書室を含め 38 館で構成され、約135 万冊を所蔵している。国家レベルでデータベースや電子ジャーナルの充実が図られており、機関リポジトリ(CUIR)の構築も積極的に行っている。



タイ情報センター資料室

⑤ タマサート大学図書館

バンコクの王宮近くにあるタマサート大学は、1934年に設立されたタイで2番目に古い名門大学である。当初法学系の大学であったが、現在は社会・人文科学、自然科学の全領域にコースがあり、15学部、32,000人以上の学生が学んでいる。(タープラチャンキャンパス外3

キャンパスある。)図書館は学部等の図書室を含め 12 館で構成され、約 120 万冊を所蔵している。チュラロンコン大学と同様にデータベースや電子ジャーナル、IT情報環境も充実し、PC650 台が各図書館に整備されている。



館内スタッフと意見交換



地下にある閲覧室

3大学とも日本の東大、京大に匹敵する大学で、国家レベルでの支援体制が充実し、人材育成に対応した図書館サービス機能向上のため、利用環境や施設整備の拡充が行われている。図書館員のスキルの高さを随所に感じながら、今後の交流に向けた友好的な訪問となった。

(まつもと ひでき: 図書館情報課長 ・ もりた ただし: 総務係長)

「聞蔵Ⅱビジュアル」 利用ガイド

新聞記事の検索ツールとして、聞蔵Ⅱビジュアルをご紹介します。

聞蔵Ⅱビジュアルは朝日新聞オンライン記事データベースです。朝日新聞の記事およびAERA、週刊朝日の記事が検索できます。

収録内容は以下のとおりです。

- 戦後紙面データベース：1945年～1984年までの朝日新聞紙面を収録（「戦後紙面データベース部分」の閲覧には専用ビューワーのダウンロードが必要です。）

- 1984年以降の記事データベース

- ☆朝日新聞本紙（東京、大阪、西部、名古屋、北海道の各本社発行分含む）
- ☆朝日新聞地域面：1998年に収録開始した東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・栃木の各地域面ほか、順次収録を開始。現在は沖縄県を除く全都道府県の主要地域面を収録。
- ☆AERA：1988年5月（創刊号）～、週刊朝日：2000年4月～ニュース面

聞蔵Ⅱビジュアルの特徴

- 1.戦後（1945年～1984年）の新聞記事すべてを検索可能
- ◇見出しや主要キーワードを対象に全文一致検索

◇主要キーワード、年表などの豊富な分類項目による検索も可能

2.1984年以降の記事データベース

- ◇2005年11月以降、全国の本紙、地域面の新聞切り抜きイメージ（PDFファイル）も表示
- ◇関連キーワードも参照できる全文一致検索や記事種別・ジャンルによる分類検索の機能

3.最新記事をいち早く収録。毎日1,000件追加される国内最大級の収録数

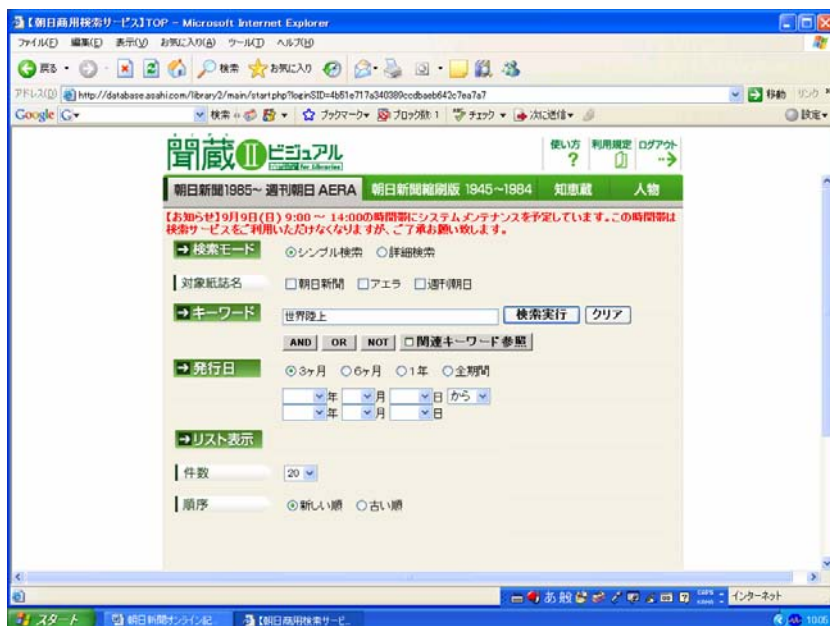
聞蔵Ⅱビジュアルの使い方

図書館ホームページあるいは図書館に設置してある利用者用パソコンのメニュー画面からお入りください。大学内のLANに接続されたパソコンならどこからでも利用できます。

接続手順

- 1.図書館ホームページの「論文などを探す」にマウスのポインターを持ってきてください。
- 2.次に、聞蔵Ⅱ（朝日新聞記事索引）をクリックしてください。
- 3.「login to 聞蔵」ボタンを押すと検索画面に移ります。

検索画面



検索結果表示



◆アクセス制限

接続 ID は 1 です（学内限定）。

同時に複数の人がアクセスすることはできません。利用後は「ログアウト」ボタンをクリックして接続を断ってください。

平成18年度 日本紹介コーナー図書

平成18年度の留学生用図書購入費で次の61点の資料を購入しました。選定にあたって、国際交流センターの谷守先生、御館先生、竹田先生のご協力を得ました。ここに改めてお礼申し上げます。

日本人学生向け図書

請求記号	書名/編著者	発行所/発行年
290.93:Chi:A02	地球の歩き方 A02 イギリス '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:A06	地球の歩き方 A06 フランス '07-08 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:A09	地球の歩き方 A09 イタリア '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:A14	地球の歩き方 A14 ドイツ '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:A31	地球の歩き方 A31 ロシア ウクライナ ベラルーシ コーカサスの国々 '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:B01	地球の歩き方 B01 アメリカ '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:B16	地球の歩き方 B16 カナダ '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:C10	地球の歩き方 C10 ニュージーランド '07-'08 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:C11	地球の歩き方 C11 オーストラリア '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:D01	地球の歩き方 D01 中国 '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:D03	地球の歩き方 D03 北京 天津 '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:D09	地球の歩き方 D09 香港 マカオ '06-'07 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:D13	地球の歩き方 D13 ソウル '07-'08 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
290.93:Chi:E02	地球の歩き方 E02 エジプト '07-'08 / 「地球の歩き方」編集室編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
329.3:Kok	国際公務員を目指す留学と就職 / グローバル・リンク・マネージメント著	ALC / 2001
377.6:Kai	海外の大学・大学院で授業を受ける技術 : Study skills / 川手・ミヤジエエフスカ恩著	ALC / 2003
377.6:Ryu	留学生アドバイザー : 学習・生活・心理をいかに支援するか / 横田雅弘, 白土悟著	ナカニシヤ出版 / 2006
377.6:Sei:A-(05)-(06)	アメリカ語学留学 〈2005-2006 年版〉 / 「成功する留学」編集室編	ダイヤモンド・ビッグ社/2005
377.6:Sei:B-(05)-(06)	イギリス&アイルランド留学 〈2005-2006 年版〉 / 「成功する留学」編集室編	ダイヤモンド・ビッグ社/2005
377.6:Sei:C-(05)-(06)	アメリカ大学・大学院留学 : 世界の仲間と「本気」で学ぶ 〈2005-2006 年版〉 / 『地球の歩き方』編集室著作編集	ダイヤモンド・ビッグ社/2004
377.6:Sei:D	カナダ留学 / 「成功する留学」編集室編	ダイヤモンド・ビッグ社/2006
377.6:Sei:F-(04)-(05)	フランス留学 〈2004-2005 年版〉 / 「成功する留学」編集室編	ダイヤモンド・ビッグ社/2004
407:Rik	理系たまごの英語 40 日間トレーニングキット : 世界で活躍する理工系研究者を目指して / 佐藤洋一 編、信定 薫 著	ALC / 2006
407:Sai	サイエンティストを目指す大学院留学 : アメリカの博士課程で学ぶ最先端のサイエンス・テクノロジー / 生田哲著	ALC / 1997
830.79:Iel	IELTS 学習法と解法テクニック / Vivien Cohen 監修・執筆 : 津吉襄記	ALC / 1998

外国人留学生向け図書

請求記号	書名/編著者	発行所/発行年
210.1:Zus:(26)	図説京都府の歴史(図説日本の歴史 26) / 森谷尠久責任編集	河出書房新社 / 1994
210.8:Nhk:(1)	NHK 日本 映像の20世紀 北海道・東北地方：北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 / 「日本映像の20世紀」プロジェクト監修	ポプラ社 / 2003
210.8:Nhk:(2)	NHK 日本 映像の20世紀 関東地方：茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 / 「日本映像の20世紀」プロジェクト監修	ポプラ社 / 2003
210.8:Nhk:(3)	NHK 日本 映像の20世紀 中部地方：愛知県 岐阜県 静岡県 山梨県 長野県 新潟県 石川県 福井県 富山県 / 「日本映像の20世紀」プロジェクト監修	ポプラ社 / 2003
210.8:Nhk:(4)	NHK 日本 映像の20世紀 近畿地方：三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 / 「日本映像の20世紀」プロジェクト監修	ポプラ社 / 2003
210.8:Nhk:(5)	NHK 日本 映像の20世紀 中国・四国地方：鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 高知県 愛媛県 / 「日本映像の20世紀」プロジェクト監修	ポプラ社 / 2003
210.8:Nhk:(6)	NHK 日本 映像の20世紀 九州・沖縄地方：福岡県 長崎県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県 / 「日本映像の20世紀」プロジェクト監修	ポプラ社 / 2003
213.6:Kos	古写真で見る江戸から東京へ / 小沢健志, 鈴木理生監修	世界文化社 / 2001
281.03:Zus	図説明治人物事典 / 湯本豪一編	日外アソシエーツ(紀伊國屋) / 2000
291.09:Sha	写真で歩く日本のたたずまい：記録・全国の文化財 / 高野進写真・文	彩流社 / 2006
382.1:Tsu	対馬海流と出雲世界(日本民俗写真大系 7) / 草の根出版会編集	日本図書センター / 2000
382.136:Ede	絵でよむ江戸のくらし風俗大事典 / 棚橋正博, 村田裕司編著	柏書房 / 2004
383.81:Den:(1)-(12)	伝承写真館日本の食文化(全12巻) / 農文協編集	農山漁村文化協会 / 2006
386:Nih	日本と世界の365日なんでも大事典 / こよみ研究会編	ポプラ社 / 2003
386.1:Gre	The great festivals of Japan : spectacle and spirit / Hiroyuki Ozawa ; translated John Bester	Kodansha International. / 1999
386.8:Nih	日本の伝統芸能(写真集日本の文化 1) / 本田安次著	錦正社 / 1990
521.6:Zus	図説・近代日本住宅史：幕末から現代まで / 内田青蔵, 大川三雄, 藤谷陽悦編著	鹿島出版会 / 2001
629.21:Vis	ヴィジュアル日本庭園鑑賞事典[改訂増補版] / 大橋治三, 斎藤忠一編	東京堂出版 / 2000
682.1:Bun	文化庁選定 歴史の道百選：森田敏隆写真集 / 森田敏隆著	講談社 / 2002
682.1:Kos	古写真で見る街道と宿場町 / 児玉幸多編著	世界文化社 / 2001
728.8:Gen	源氏物語絵巻(日本名筆選 46)：伝藤原伊房筆 伝寂蓮筆 伝飛鳥井雅経筆 / 二玄社編集部編	二玄社 / 2004
748:Nih	日本の山百景：写真集 / 山岳写真同人四季著	東京新聞出版局 / 2004
748:Shu	春夏秋冬：東京百景 中村乃武夫写真集 / 中村乃武夫著	源流社 / 1996
759:Zus	図説からくり人形の世界 / 千田靖子著	法政大学出版局 / 2005
791:Nih	日本文化の基礎がわかる茶道・華道・書道の絵事典：初歩から学ぶ / PHP 研究所編	PHP 研究所 / 2006
793.7:Kaw	川瀬敏郎 今様花伝書 / 川瀬敏郎[著]	新潮社 / 2002
810.7:Bun:(1)	文法超簡単：立即開口説日語 / 林玉女著	大新書局 / 2006

CD-ROM80-12	日本語学習 CD-ROM クリック e コミック「コボちゃん」	凡人社（発売） / [200-]
CD-ROM80-13-1	分野別にほんごシリーズ 1 CD 企業・交通・経済 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2003]
CD-ROM80-13-2	分野別にほんごシリーズ 2 CD 食べ物・料理・飲食店 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2004]
CD-ROM80-13-3	分野別にほんごシリーズ 3 CD 文化・芸術・娯楽 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2004]
CD-ROM80-13-4	分野別にほんごシリーズ 4 CD 歴史・宗教・風習 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2003]
CD-ROM80-13-5	分野別にほんごシリーズ 5 CD 旅行 各地 東京 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2004]
CD-ROM80-13-6	分野別にほんごシリーズ 6 CD 環境・科学・教育 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2003]
CD-ROM80-13-7	分野別にほんごシリーズ 7 CD 政治・法律・国際関係 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2003]
CD-ROM80-13-8	分野別にほんごシリーズ 8 CD 風俗・社会・生活 / にほんごインスティテュート編集部編	日本語インスティテュート / [2006]

本学教員著作寄贈図書

（平成 18 年 10 月～平成 19 年 9 月受入分）



この度は次のとおり寄贈していただきました。誠にありがとうございました。
2階の「本学教員著作寄贈図書コーナー」に配架し利用に供しています
ので、是非ご利用ください。

FU	藤島弘純 (元地域学部)	明日を信じる魂の讃歌	今井書店 2006.12
KA	賈恵京 (講師)	日韓類似ことわざ辞典 改訂版	白帝社 2007.6
NO	野津龍 (元地域学部)	隠岐島後三大祭り	山陰ランドドットコム社 2007.2
NO	能勢隆之 (学長)	能勢隆之教授退官記念 健康政策医学分野業績目録	鳥取大学医学部 医学科社会医学講座健康 政策医学分野 2006.10
SA	作野友康 (元農学部)	CDブック木材研究43年の軌跡 作野友康研究業績集	作野友康 2006.10
TA	高塚人志 (医学部)	いのちを慈しむ ヒューマン・コミュニケーション授業	大修館書店 2007.2
TS	恒川篤史 (乾燥地研究センター)	21 世紀の乾燥地科学：人と自然の持続性 (乾燥地科学シリーズ第 1 巻)	古今書院 2007.3

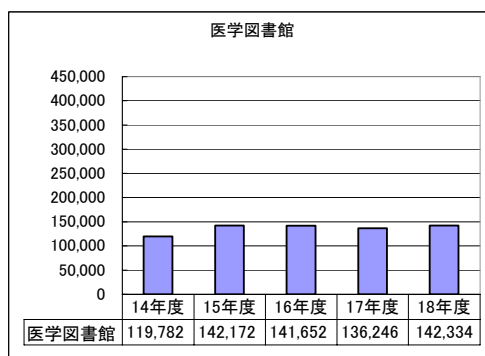
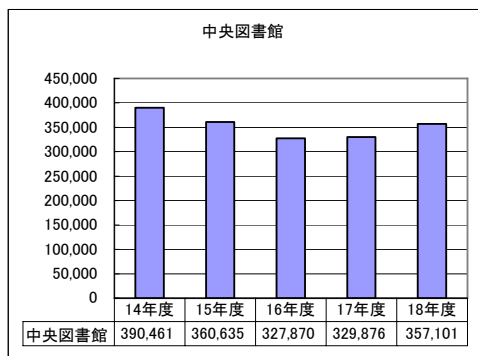
平成18年度 利用状況

(最近5カ年利用状況及び公共図書館利用貸出冊数)

年度別開館日数

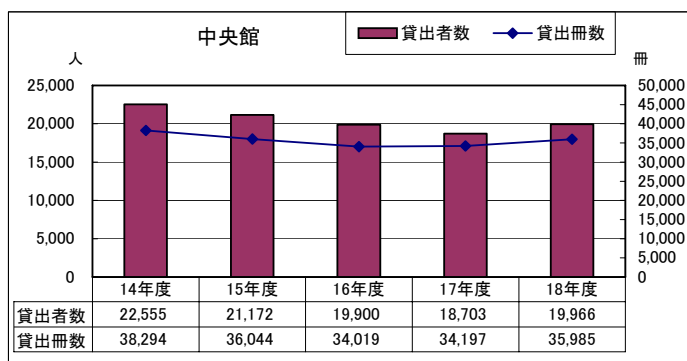
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	309日	291日	312日	314日	311日
医学図書館	327日	330日	331日	333日	327日

年度別入館者数

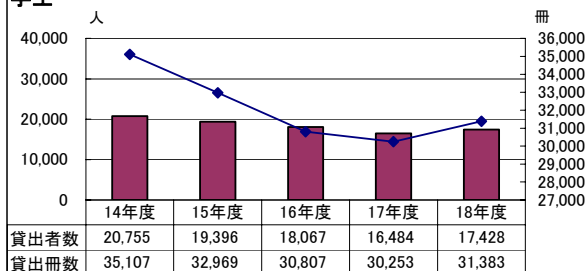


年度別貸出者数・冊数

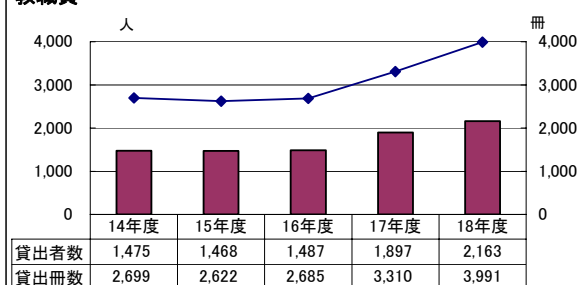
中央図書館



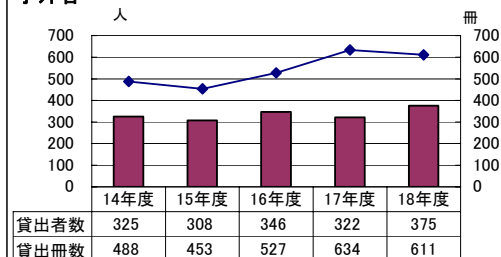
学生



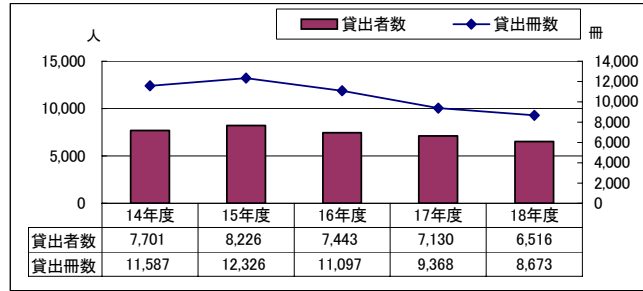
教職員



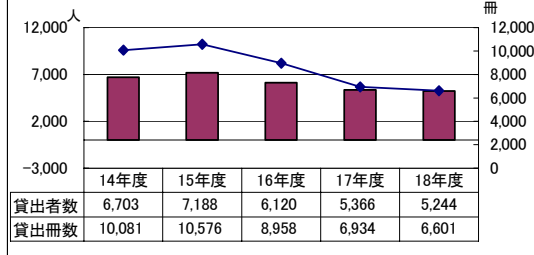
学外者



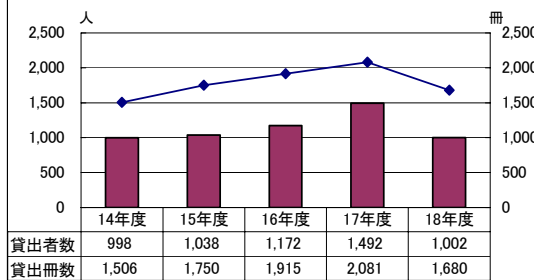
医学図書館



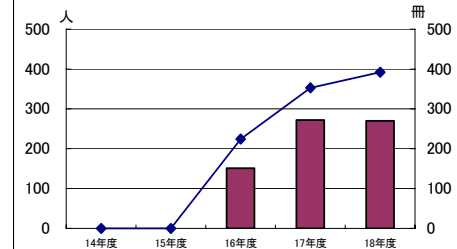
学生



教職員

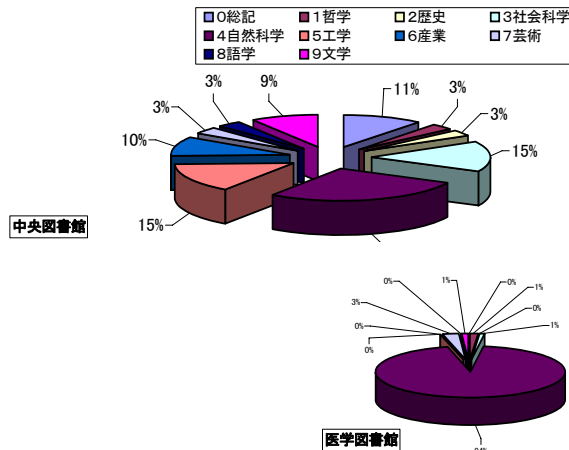


学外者

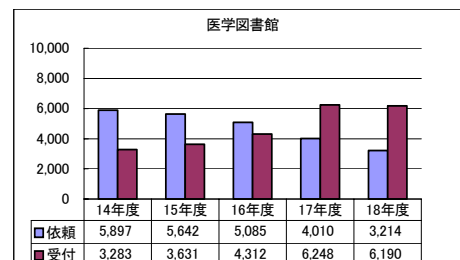
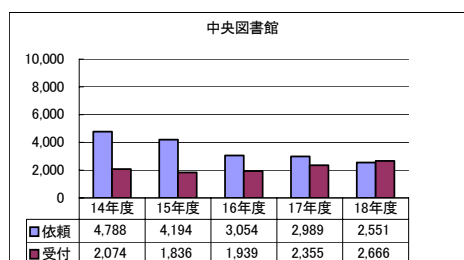


平成18年度分類別貸出冊数

分類	中央図書館	医学図書館
総数	35,985	8,673
0総記	3,893	8
1哲学	1,102	107
2歴史	1,085	15
3社会科学	5,536	63
4自然科学	9,889	8,136
5工学	5,265	2
6産業	3,509	0
7芸術	1,218	255
8語学	1,221	1
9文学	3,267	86



文献複写学外依頼・受付件数



県内協定締結図書館の利用状況

鳥取県立図書館

○中央図書館

		H16	H17	H18
依頼	人数	249	349	341
	冊数	475	667	636
受付	人数	3	5	22
	冊数	3	6	23
ブックポスト返却冊数		1,961	3,210	2,706

○医学図書館

			H16	H17	H18
依頼	人数	協力用図書	340	612	456
		リクエスト	32	86	88
		合計	372	698	544
	冊数	協力用図書	550	928	621
		リクエスト	57	136	148
		合計	607	1,064	769
受付	人数	0	0	0	
	冊数	0	0	0	

* H16.8より実施

鳥取市立図書館

○中央図書館

		H17	H18
依頼	人数	98	275
	冊数	248	505
受付	人数	0	11
	冊数	0	15
ブックポスト返却冊数		590	1,148

* H17.10より実施

米子市立図書館

○医学図書館

		H17	H18
協力用図書	人数	155	290
	冊数	208	453

* H17.10より実施

* 受付は距離が近いいため直接貸出。

倉吉市立図書館

○中央図書館

		H18
協力用図書	人数	147
	冊数	182
受付	人数	18
	冊数	27

* H18.10より実施

境港市民図書館

○医学図書館

		H18
協力用図書	人数	99
	冊数	124
受付	人数	1
	冊数	2

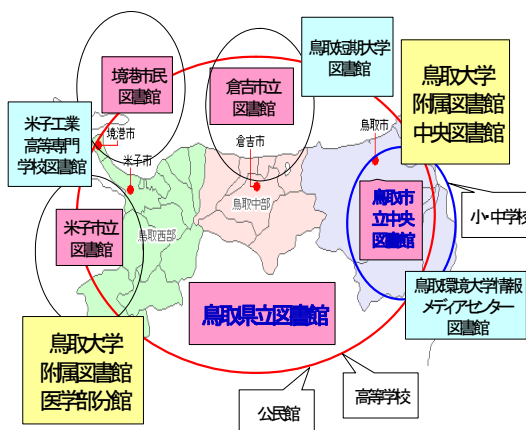
* H18.5より実施

鳥取環境大学

○中央図書館

		H17	H18
依頼	人数	7	16
	冊数	8	18
受付	人数	3	4
	冊数	3	5

* H18.1より実施



鳥取大学附属図書館では県内の公共図書館と連携して、他の図書館が所蔵している資料をリクエストに応じて取り寄せたり、50冊や100冊単位のセットで借りて(協力用図書)学内の学生・教職員の皆さんに貸出を行っています。また逆に、当館の資料も他の図書館へ送り、利用していただいています。ホームページなどでご案内していますが、まだまだこのサービスをご存じない方が多いようです。県内の公共図書館、鳥取環境大学、鳥取短期大学、米子工業高等専門学校で所蔵する資料は無料で取り寄せることができます。利用したい場合は、どうぞ遠慮なく図書館カウンターへお尋ね下さい。

////////////////////////////////ミニ・トピックス////////////////////////////////

鳥取県大学図書館等協議会第7回総会を開催

平成 19 年度鳥取県大学図書館等協議会総会(第7回)が去る6月15日(金)、鳥取短期大学を会場に開催されました。加盟する本学、鳥取環境大、米子高専、鳥取短大の図書館等計4館から12名が出席したほか、今回初めて放送大学鳥取学習センターと倉吉市立図書館からもオブザーバーとして3名の参加がありました。

今年度の副幹事館である鳥取短期大学図書館野津和巧館長の挨拶の後、同館の岡本司書係長が議長を務め、各館の今年度活動計画や現状の報告が行われました。

その後、議事に移り、本学から提案した「鳥取県大学図書館等協議会ホームページの利活用に向けて」について、相互利用マニュアル Web 版の作成、メーリングリストの更新、お知らせ及びリンク情報の活用などについて協議した結果、本学図書館を中心に相互利用マニュアル Web 版を協議会ホームページ上へ作成するなどして、一層充実させて行くこととしました。また、前回還

流事項としていた参加館間現物貸借サービスについても協議し、全加盟館間で公共図書館の配送システムを利用した相互貸借を実施していくこととなりました。

来年度の幹事館は引き続き本学図書館とし、副幹事館に米子工業高等専門学校図書館情報センターを選任して総会を終了しました。

総会終了後、倉吉市立図書館の谷口いづみ氏が「倉吉市立図書館のヤングアダルトサービスの取組みについて」と題したプレゼンテーションを行い、続いて本学図書館の松本秀毅図書館情報課長と森田総務係長が、昨年度末に視察したシンガポール・上海、ベトナム・タイの大学図書館について各々報告を行いました。

これまで年度末に開催していたこの会議を、今年度から年度初旬に改めたことによって、年間の事業目標が設定できたと共に、今後の在り方や役割について互いの共通認識を得られたことは大きな収穫でした。

////////////////////////////////

平成19年度 中学生職場体験学習を実施しました

中央図書館では6月26日から29日の4日間を本学附属中学校、7月2日から6日の5日間を鳥取市立湖東中学校の、2つの中学校から2年生3名ずつの職場体験学習を2週間にわたり連続して受け入れました。

これは、仕事や社会へ積極的に関わる体験を通して人間関係づくりを学び、共に生きる心や感謝の心を育むことを目的として両校が毎年実施しているもので、今年度で8年目を数えています。

生徒たちは、慣れない作業に戸惑いながらも、カウンターでの図書の貸出・返却処理をはじめ、雑誌の受付や NACSIS-CAT から書誌データをダウンロードするなどの業務を体験したほか、簡



単なホームページの作り方や電子ジャーナルについて熱心に学びました。そのなかで、「緊張したが、カウンターでの利用者との対応が楽しかった。」「難しいことがたくさんあって失敗も多かったが、いろいろな仕事の楽しさや大変さが学べてよかった。」などと感想を話していました。



平成 19 年度第 1 回 鳥取地区図書館実務者連絡会議を開催

平成 19 年 7 月 13 日、県内東部の大学図書館(鳥取大学附属図書館、鳥取環境大学情報メディアセンター)と公共図書館(鳥取県立図書館、鳥取市立中央図書館)の 4 館から実務担当者 16 名を集めて、平成 19 年度第 1 回鳥取地区図書館実務者連絡会議を本学総合メディア基盤センターで開催しました。

この会議は、館種を異にする4館の館員が業務の連携と協力を推進するとともに、実務者レベルでの相互の図書館の充実と発展に寄与することを目的として、平成 17 年 6 月から当館が中心となって開催しているもので、今回で延べ 6 回目を数えています。

最初に、各館の近況報告と前回協議して作成した4館の「総合ガイドブック」の配布状況について報告と質問がありました。続いて協議題に移り、「地域の図書館

レベルアップ貢献事業について」や「地区内図書館の今後における相互協力の在り方について」それぞれ熱心に協議しました。今後も積極的に講演会や公開展示を共同で開催することに加えて、鳥取地区全体で協力して資料の保存・廃棄・利用等の検討を行うなど、その課題と解決に向けた具体策について活発な意見交換を行いました。



鳥取県看護協会情報検索研修会を開催

附属図書館では標記の情報検索研修会を、8 月 23 日に本学総合メディア基盤センターを東部会場、また 29 日には医学部保健学科棟コンピュータ演習室を西部会場として、鳥取地区及び米子地区県内 2 つの会場で開催しました。

この研修会は、当館が(社)鳥取県看護協会からの要望に応じて今年度初めて実施したもので、各々「有効な文献検索をしようインターネット

で文献検索」と題し、当館職員が看護師・保健師などを対象に終日医学中央雑誌WebやCiNiiを中心にした検索から入手にいたるまでの講義と演習を行いました。

当館ではこれまで「地域の図書館レベルアップ貢献事業」などを通じて公共図書館、学校図書館と連携し、闘病記文庫の開設や市民・患者へのわかりやすい健康・医療情報の提供に努め

ていますが、今回の研修も社会貢献のひとつとして実施したもので、県内の病院等から東部会場27名、西部会場22名の医療関係者が参加しました。

最初は戸惑っている参加者もいましたが、研修の最後には各自のテーマに沿って必要な文献を探しコピーをする姿が見受けられ、「よい医療サービスを提供するために、膨大な文献の中から必要な情報を検索する技術の習得が大切なことを痛感した。」、「今後はもっと医学中央雑誌 Web 等の文献データベースを利用し、看護研究

等に活かしたい。」などの感想が聞かれました。

当館では引き続きこのような事業を行い、地域の医療情報の中核拠点として貢献して行きたいと考えています。



鳥取県立図書館との相互職員派遣研修第2回を実施

昨年度から実施している鳥取県立図書館との相互職員派遣研修を、今年度は医学図書館で実施しました。

この研修は、平成 14 年に締結した「鳥取大学附属図書館及び鳥取県立図書館の図書館利用の相互協力に関する協定書」に基づいたもので、各々の所属の職員をその身分を有したままで相互に1名ずつ派遣することによって、両館の職員が互いの職場の業務を実際に体験して理解するとともに、相互協力協定に沿った図書館サービスの更なる向上を図ることを目的としています。

今回も研修実施要項に従い、先ず9月3日～

7日の5日間に亘って県立図書館職員を鳥取大学に受け入れ、医学図書館ならではの医学文献データベース・電子ジャーナルの演習などを行いました。

更に一方で、10月15日から19日まで医学図書館職員を県立図書館へ派遣し、郷土資料・環日本海資料・児童サービスなどの各種業務の実習を行う予定です。

それぞれの館員が、館種の違った図書館業務を体験してスキルアップするとともに、両館が新しい風を受け入れて活性化していくことが期待されています。

教員・職員のみなさまを対象とした

図書館サービスの案内について

中央図書館では、教員・職員のみなさまに、更に図書館を利用していただくため、図書館サー

ビス案内を図書館ホームページに作成しました。附属図書館ホームページのサービス案内から、

また、画面上の各項目からアクセスすると詳細画面が表示されます。是非、ご覧ください。

教員の皆様へ http://www.lib.tottori-u.ac.jp/guide/kyoin_guide_hp.pdf

職員の皆様へ http://www.lib.tottori-u.ac.jp/guide/shokuin_guide_hp.pdf

附属図書館メインページ <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

(写真は、職員向け画面です。)



鳥取大学附属図書館報 第110号 (2007年10月)

〔編集・発行〕 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 〔TEL〕(0857)31-6727 〔FAX〕(0857)28-6346

〔E-Mail〕k030000@zim.tottori-u.ac.jp/ 〔ホームページ〕<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】